山行報告

千ケ峰縦走

日　時：5月18日（日）　リーダー：舛賀　　ＳＬ：砂川　　参加者数：１９名
参加者：阿蘇・今山・上田・内海・貝塚（文）・河合（信）・河合（由）・北川・佐藤・利弘・
戸野本・中嶋・長谷川（孝）・船津・藤原・西村・待場
コース：高砂運動公園 7：15～市原峠登山口 8：50（車、回送待ち等）10：05～またに山頂
10：48～市原峠 11：37（昼食）13：20～雨乞岩 13：47～岩座神 15：00～千本杉
15：20～三谷登山口（Ｐ）16：15～春蘭荘 16：45（入浴）17：30～高砂運動公園
19：15　解散

★　千ケ峰を歩く　　河合

晴天の予報のもと、車 4 台に分乗して高砂運動公園を 7：15 出発。　ここから 17 名と現地で 2 名の合流で 19 名の参加です。　新緑の山々に包まれた播州平野を通り、多可町加美区を目指してドライブです。　あちらこちらで草刈などの共同作業をしている集落、すでに田植を終えた、爽やかな田園風景を楽しんでいると、2 時間ほどで市原峠に着く。昔の人が神崎町への山越えに通った峠。旧の登山道（舗装道路の高台）に二本杉のお地蔵さんがちらりと見えました。　開発で追いやられ、お地蔵さんは何想う。

峠から車 4 台が藤原さんと佐藤さんが待機するハーモニーパークへ向かう。居残り組の女性たちは木陰にかたまって情報交換を楽しんでいるが、　男性たちは？　10 時前に今山車だけが皆さんを乗せて戻ってくる。いよいよ行動開始です。ストレッチ、集合写真、会長の下山コース変更の説明の後、舛賀リーダーの先導で“またに山”に向かう。山道に入ってすぐ、黒く長いヘビがどくろを巻いていた、早く通り過ぎたい。緩斜面の登山道は良く整備されて歩き易く、雑木林の尾根道は木洩れ日が優しく、風もよく通って気持が良い。11：00“またに山”山頂（928m）に着き、休憩時にシルバーコンパスの使い方を練習する。千ケ峰を前方に見ながら、ピストンで市原峠に戻る。　ここで早昼を取ることになり、
また同じ木陰に座り込み、加美区出身の待場さんお薦めの焼き鳥、鯛焼き、アイスクリームなど、下山後の楽しみで盛り上がりました。　焼き鳥の注文をお願いする。

12：00 千ケ峰に向かう。ウグイスに迎えられ、ワラビの自生地を抜け、日差しを気にすることなく、心地よい風を受けて、皆さんはお話が弾んでいて賑やかです。　クマザサの尾根道を過ぎると千ケ峰頂上（1005m）。峠からは 1 時間ほどです。　息子達が小学生の頃一緒に登った山。当時を思い出して笠形山、雪彦山、氷ノ山方面へと 360 度のパノラマを楽しみました。　眼下の山々はパレットの調色のように、濃淡の緑が鮮やかに彩りこの季節だけの取り置きが楽しめます。山頂で記念写真を撮る。

13：20 雨乞岩に向かう。分かれ道でザックを置き進む。　　古人が雨乞いをしたという巨岩、ここにいると湿気を感じる。誰か念じているのでは？　13：55 岩座神への下山道をとる。今までの

一般道と違って、ロープに助けられての急降下、気持を引き締める。谷は薄暗く、湿っぽく、足元は滑り易い。時間が長く感じられる。1時間ほど下っただろうか、水の音と流勢が増し下流に出る。　紅い山椿、白い可憐な花などを和みながら六地蔵に見守られて、全員が無事に下山出来ました。有難うございました。

神光寺から天然記念物の“千本杉”を見に行く。　高さ14mのほぼ真ん中から樹幹が多数の枝に分かれていて　とても珍しい姿。このタイプは阿蘇とここだけらしい。

岩座神の棚田のオーナー制度により、この地域に活性化が興り、農が人々を呼び寄せた、いきさつがパンフレットに詳しく書かれています。棚田は先達の思いを次代に受け継いでいく。

焼き鳥、鯛焼き、アイスクリームも町おこしですね。　待場さんお世話になりました。

●千ヶ峰山行のちょっと一言　　佐藤

山に少し興味を持ち始めた２０歳の頃、誘われるままに登った千ヶ峰
（どこから登ったのか思いだせないのですが、、、）
季節は秋、息もたえだえに頂上に辿り着いた時目に入ってきたのは
銀色にかがやき風に波うつススキの穂、、、３０年たった今でもその光景は
鮮明に思いだされます。

青春の思い出深き千ヶ峰
若葉萌えたつ山道に
時は昔に戻りけり

●千ケ峰山行のちょっと一言　　藤原

江戸時代から語り継がれたという、岩座神の七不思議。
すべてを訪れることはできなかったが、なかでも千本杉の姿には
驚かされた。太い幹の先端から無数の枝が四方八方に伸び、葉を茂らせている。
いったい何が起こったのだろうか？落雷、落石、病気、動物の食害？？？

氷ノ山スズコ狩り山行

日　時：５月２４日（土）～２５日（日）　　リーダー：砂川　　参加者数：７名
参加者：今山・河合（信）・須増・上田・山本・森永
コース
２４日：加古川 8:30　大段平 11:55－12:55　大屋町避難小屋 13:30　神大ﾋｭｯﾃ着 14:00
２５日：神大ﾋｭｯﾃ 9:55　氷ノ山山頂 10:30　ﾋｭｯﾃ着 11:00（ｽｽﾞｺ狩り、昼食）　下山開始 13:00
大段平着 13:40－14:00　天女の湯 15:00－15:50　高中そば 16:25－17:00　加古川 18:50

★　雨にけむる「氷の山」今年の根曲がり筍狩り　　今山

何故か、「氷の山」と雨が合う
重い重い雨や雪に閉じこめられた雰囲気がある
それはあの伝説の人、単独行の加藤文太郎をイメージすると思うのは
私だけだろうか？

5/２４（土）
恒例の根曲がり筍狩りを実施したが、今年は九州霧島山行組

と分散され、又他会との合流者もなく総勢７人（男６女１）のこじんまりとしたパーテー編成で加古川、宝殿（８：４３）を出発した。空模様は今にも雨が降り出しそう予報も午後から明日にかけてまとまった雨とのこと車中で早くも降ったら酒をのむしかねーなとの会話。姫路より播但道を快適に北上、トイレ休憩を兼ねてあさごサービスエリアへ、新鮮な白菜を購入した。生野トンネルを抜けると大雨になった、早く着いても仕方ないとみんなのんびりムードが漂う、和田山で一般道（R9 号線）に途中スーパートヨダで本格的な買物をした、天気の悪さも手伝って買い方に思い切りがいい、今日の夕食メニューは白菜鍋、レシピは 3 週間前大峰稲村小屋で習得済み、それに個人共同装備を合わせると大変な荷物だ、買うのはいいがこれもって上がるんやでー少し心配になる。
１１：０５奈良尾部落着これから予定の大幹線林道が落石の為通行止めになっていた、大段ヶ平にいけない、一瞬ルート変更するしかないか？が砂川リーダーの機転で鵜縄ルートへ迂回しことなきを得る。林道の側面に卯の花が白く咲き乱れている。１１：５５頃大段ヶ平駐車場へ着いた、雨は小雨になっていた、やはり雨のせいか車も少ないすぐ車の中で弁当を食べ買い込んだ食糧や共同装備を分散梱包した、ザックの小さい森永さんは背負子を使ってもらう、同じく須増さんは後ろに大きく膨らみ変な格好になった。各人のザック重量を測り１２：５５出発したのは良いがストレッチを忘れていた。ここからのルートは道は広く傾斜もゆるく楽チンコースだ、昔のガイド地図を見ると尾根沿いに神大ヒュッテを目指すコースは距離もありマニア向きのコースとある、今は信じられない！途中脇に生えた筍を取りながら登り神大ヒュッテに１４：００着いた。気温 9．5 度、中に入るとあのまきストーブが新調されていた。荷物を整理し直ぐに砂川、山本さんと今山は水道の給水口の整備に谷あいへ、夕食準備組は森永、上田さん、あと河合、須増さんはストーブ焚きつけや食事場のテーブルを出したり、採りたての筍をむいたり何かと忙しい、そろそろ飲みながらやろうか？とリーダーが言ったのは 3：50 分いよいよ至福の時が来た、豚肉や豆腐、味噌、コンニャク、アゲ、シメジ、ネギ、コマツナ等具沢山の白菜鍋を前にストーブで焼いたサバ、イカ、シシャモ、ホタルイカで大いに飲む食べる、そして山を語る毎年同じパターンで山小屋生活を送っている、ここにはテレビもビデオも無いが、家長を中心に家族全員が助け合う昔の生活があった、まさに高御位登山学校の合宿だ。　9：00 おやすみなさい。

5/２５（日）

6：00 起床　霧雨今日も天気は見込みなし！すぐに朝食準備にかかる、ストーブが良く燃えてなによりも煙が室内に充満しないので快適だ。メニューは昨夜の鍋にご飯で雑炊と野菜スープ、手製の一夜漬物に例のつまみでお酒も少々いただきなんとも豪華版だ。片付けを済ませテーブルで 9：00 を待ってラジオを聞き取り天気図を描く、音量が小さく聞き取りにくかった、途中県連の喜多、藤原両名が合流、但馬労山は雨天の為中止で交流会も取りやめになった。10：00 頂上へ向かって出発、千本杉付近で残雪ありイワカガミが可憐に咲いている、古千本杉、古生沼　西日本唯一の高地性湿原この辺りが 300 万年前の噴火口らしい、山頂に 10：32 着いたが視界ゼロ小屋の中で記念撮影、小屋脇の須賀の山神社の祠に手を合わせ早々に下山約 1 時間筍狩の自由時間とした。みんな雨にも負けず合羽のまま竹やぶへ消えた。11：00 今度は昼食準備だ、アルファー米の赤飯と五目飯を鍋で炊いた、こんがり焦げ目もついてほんとおいしい。何よりも嬉しかったのは、料理メニュー、材料、味付けどれも好評で、ストーブの上で魚類の焼き物もでき又可燃物は焼却処分をし、食材の残りや残飯が少なく、筍の少ないのは残念だったが軽くなったザックで 13：00 神大ヒュッテを後にしオオカメノキに見送られ 40 分で下山口に着いた。

ストレッチを入念に行いここからは泊まり山行いつものお決まりコースだ。まず、とがやま温泉天女の湯で汗を流し、中間食で養父市は高中村の手作りソバを食べに、この村は人口 42 人 16 所帯山合にあり村おこしで始めたそうだ、味は柔らかく素朴な味だった。腹を満腹にして後は播但道を一直線、無事に帰宅の途についた。荒天で山の醍醐味は満足できなかったが、同じ釜の飯を食い衣食住山小屋生活のあり方の

経験を積み、仲間の連帯感を実感した散策路であった。　　おわり

スズコは根元が弓状に曲がるので、一般にはネマガリダケ（根曲竹）と呼ばれています。県北部日本海側の標高 1000m付近の山の斜面などに群生しています。スズコは採る為には背丈以上の笹の中に入る事になり、密集した笹薮の中へ夢中になって入り込むと出てくるのには苦労する、周囲の見通しが利かなくなって遭難したり、熊の好物であるため遭遇して襲われることもあるとか。しかしその味や希少価値などから「山菜の王様」と呼ぶ人もいる。アクが少ないため直接、茹でたり焼いたりしたものを熱々のうちに皮を剥き、そのまま塩やマヨネーズをつけ食べると触感と程好い香りがしてビールのつまみには最高！もう止められない。

九州：霧島連山縦走

日　時：５月２４日(土)～２５日(日)　１泊２日　リーダー：舛賀　参加者数：８名
参加者：砂川（美）・金島・西村・松下・待場・渡邊・利弘
コース
１日目：８時５分神戸空港～９：０５鹿児島空港 10：52～霧島温泉いわさきホテル 11：35～（タクシー）えびの高原 12：00（散策）12：15～六観音御池展望台 12：45（神社で雨宿りし昼食）13：15～エコミュージアム 13：50（見学）14：35（送迎車）みやま荘 14：45
２日目：みやま荘６：40（送迎車）～６：55 えびの高原登山口～７：10 韓国岳～７：45 ２合目～８：20　５合目～８:55 韓国岳頂上（休憩）９：10～10：10（樹林帯で休憩）10：20～11：10 獅子戸岳頂上（昼食）12：00～12：25 新燃岳火口～12：45 高千穂峰眺望 12：50～13：00 新燃岳頂上着 13：05～13：25 中岳頂上 13：40～14：30 高千穂河原 14：50（タクシー）～15：00 霧島神宮 15：20～15：30 町営神の湯温泉 16：35～17：00 鹿児島空港（夕食・買い物）20：25～21：25 神戸空港～22：15 三宮解散

★　霧島連山から高千穂河原に　　金島

「梅雨に入っているかもわからないけれど 5 月 24 日、25 日は晴れ女をもって好天請け負います。」と宣言したものの神戸空港を飛び立つ朝 8 時には雨雲厚く今にも降り出しそうな雲行きです。男性 3 名女性 5 名の今回の仲間で九州は霧島山から高千穂河原への縦走に参加しました。テレビ番組で観た山一面が赤くミヤマキリシマで埋まるころにぜひ登ってみたい、今日は実現なのです。鹿児島空港に降り立つころには雷神が土砂降りでの歓迎、憂鬱にはなったものの雨は雨でまたたのしからずや・・・の心境です。霧島連山縦走する明日の好天に 5 名の女神の祈りをかけて 24 日は早々に宿舎みやま荘に入りました。夕食時食堂のガラス戸に何か影が写ります。鹿です。雨の中こんな人里にも鹿がやってくるのです。明日の晴れを信じて眠りにつきました。25 日朝、雨は上がっています。霧が立ち込めているものの“朝霧は一日晴れ”のごとく一気に元気が出ます。6 時朝食を済ませて最初の山、韓国岳登山

口に急ぎます。もうすでに何組か登り始めていて気のはやるところに、山の見張り隊らしき 2 人連れがザックを背負いながら「新撚岳が開きだしたみたいだ。用心して行ってください・・・」昨日から硫黄の臭いがやけに気になっていただけに微妙に不安。でも男性 3 名女性 5 名私たち一行は７時２０分韓国岳目指して登り始めた。足元の悪い林の中を少し登り終えると今度はごろごろした岩場を登ります。人気の山らしくたくさんのハイカーが登っています。登山道は程よく保全がしてあり鶯の鳴き声が心地よくそれに負けじとカッコウも鳴いています。結構冷たい風が汗ばんだ額を撫でていきます。あとから登ってきた若い夫婦は私たちを軽く追い抜き姿がたちまち小さくなっていきます。登り始めて１時間半今回最高峰 1700 米霧島連山最高峰の韓国岳に登りました。殺風景な火山岩の間に看板を置いただけの頂上ですが 8 人はひとまずガッツポーズ。晴れていれば最高の景色も霧が立ち込めていて見えません。ここからの景色を楽しみにしていましたがあきらめて１０分の休憩の後歩き始めます。案内のとおり相当のガレ場、昨日の雨でさらに滑ることも手伝って歩くに時間がかかります。ガレ場を外れるとブナ林そしてなんとミヤマキリシマを両手でかき分けのトンネルです。このあたりから空が青くなりました。贅沢な山歩きです。吐くような苦しい登りを味わっているのに稜線歩きになると私は山の魔力の手の中にのめりこみです。今度は１４２８ｍの獅子戸岳に向かい急ぎます。少し平らになったところで休憩。木漏れ日と柔らかい草の上に寝転びたいくらいの新緑です。カッコウと鶯の競演も最高のロケーション。その中で私は今回の恐怖に出会うのです。ちょっとお花摘みを思い出し奥まった草原の中ほどでのこと、あたりに人影がいないことを確かめ心静かにお花摘みを始めたところ何か音がします。茶色のまだら模様をした蛇をすぐ目の前に認めたときの私の動揺を今語るにも恐ろしくなります。絶体絶命声も出ません。突然のことに奴も驚いたか幸いにも逃げ出してくれてやれやれ。山でお花摘みは仕方のないことではありますが用心が肝要です。仲間の所に戻ってもこのことを話すことも出来ず後日の反省会にやっと打ち明けた次第です。獅子戸岳のブナ林を抜けるころから遠く南に高千穂峰が見えてきました。九州独特の山の形です。なだらかで女性的なその姿は優美で気の遠くなるような美しい風景です。昔、天上から神様が降臨された話これは強ち作り話ではないのでは？と思うほど、しばしその姿を見ながら歩きます。ここで私たちは昼食タイム、３０分の昼食休憩を取り 12 時前いよいよ新撚岳に向かいます。ごろごろした石の間を降りる途中ふと右手に突き出た獅子の貌らしき風景の大きな岩が見えます。獅子戸岳とはこのことのようです。12 時 30 分新撚岳のお釜のふちに立ちました。直径何キロぐらいあるのでしょうか。深い釜の底にはエメラルドグリーンの水を溜めています。硫黄の臭いが鼻を突きます。“新撚岳が開きだした・・”みはり隊の言葉を思い出す。水の色がエメラルドグリーンは今、火山活動をしている証拠と誰かが言う。目前に高千穂の峯を仰ぎ南はるかに続く山並みを見てお釜の縁を歩く雄大さ今回の山行の一番の醍醐味です。眼下には中岳に上る登山者がアリさん行列に見えます。私たちが中岳についたときは午後１時半高千穂川原の終点まであと１時間を残すだけになりました。初夏の風とまぶしいほどの太陽の下を高千穂川原に向かって下ります。相当に厳しいガレ場を登ってくる人たちとすれ違いながらの下山です。終着高千穂河原に午後２時半 8 名全員無事に下山しました。心地良い疲労と満足感でいっぱいの体にストレッチを済まし迎えのタクシーに身を預けました。ここは名うての温泉地、タクシー乗務員に導かれ私たちは本日総仕上げの霧島温泉入浴に向かいました。　完